

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471000545	事業の開始年月日	平成13年10月1日
		指定年月日	平成13年10月1日
法人名	株式会社 コムラード		
事業所名	もえぎケアセンター戸塚		
所在地	(244-00-185) 横浜市戸塚区下倉田町18-2		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成23年1月29日	評価結果 市町村受理日	平成23年4月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>●お花見、一泊旅行、秋祭り、クリスマスパーティーなど季節の定番行事を毎年行っており入居者・ご家族も楽しみにしている ●「くもん学習療法」を取り入れ小脳の活性化、認知症の進行防止に取り組んでいる ●階段や門扉・玄関ロビーに季節のレイアウトを施し季節感を醸し出している。また旬の食材を使用したメニューを提供し季節を感じてもらおう工夫をしている ●昔懐かしい年中行事をできる限り取り入れている</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年2月25日	評価機関 評価決定日	平成23年4月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><優れている点> ◇基本理念の実現 「福祉・介護の理念のもとに、利用者と一体感ある介護サービスを創造する」という理念とこれを支える指針5か条がある。職員会議や社長研修、社長懇談会の場で、社長は職員との対話を大切にして、理念の実現と指針の徹底を図っている。 ◇野菜の豊富な手作り家庭料理 ボランティアが庭の菜園で丹精して作った収穫物も使って、野菜が豊富な煮物、和え物、お浸し、サラダなど家庭の主婦の手作り料理が毎日食卓に上る。</p> <p><工夫点> ◇新入職員接遇研修 入社時に言葉遣いや行儀、接遇態度を説明している。 「言葉に気をつければ、態度にも表れる。利用者に対しては、堅苦しくなく、馴れなれしくしないのが大事」と指導している。 ◇地域交流を図る秋祭り 毎年グループホームと小規模多機能型居宅介護が合同で、秋祭りを開催する。利用者、家族、職員に地元の人々も参加し、地域との交流が図られている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	もえぎケアセンター戸塚
ユニット名	桜の家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

施設名：もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社長研修や毎月のミーティングを通して理念について学び確認しながら実践につなげている。	・「利用者と一体感ある介護サービスを創造する」という理念を会社案内に明記し、職員には研修で説明しミーティングで確認している。職員は理解し実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着型「秋祭り」を開催したり小学校や地域の行事に参加し交流に努めている。地域の防災訓練にも職員が参加した。	・自治会に加入し地域行事のほか、事業所の秋祭りにも地域の人々が大勢来て利用者と交流している。 ・小学校の運動会を参観し、児童も訪ねてくる。 ・歌・紙芝居・菜園のボランティアの協力がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の小規模多機能サービス利用者の家族へ認知症ケアのアドバイスをしている。また徘徊ネットワーク連絡会に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告した内容につき意見を聞きサービスに生かせるようにしている。	・運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的に開催している ・参加者は家族、自治会役員、地域包括支援センター職員、ボランティア団体役員、事業所職員である。 ・活動報告をするほかに、地元情報が多く入り、地域防災訓練にも参加できた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区主催の連絡会があり情報・意見の交換を行っている。	・戸塚区グループホーム連絡会に参加し情報交換をしている。 ・戸塚区徘徊高齢者SOSネットワーク担当者会議に出席して、地域との協力を図っている。	

施設名：もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束しないケアを理解し実践している。階段門扉の施錠は家族等にも説明し理解を得ている。	・家族相談室に身体拘束排除宣言文を掲示している。 ・会議で身体拘束をしないケアを説明し、職員は理解して実践している。 ・階段柵の施錠は利用者の行動にに応じ、近くにいる職員が開閉している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待について理解し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者がおりこの制度を実務として学ぶことができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者より十分な説明を行い理解・納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などにさりげなく様子をうかがい、不安・不満がないか耳を傾けている。意見は管理者に報告しミーティング等で話し合い改善に努めている。	・家族の来訪時及び秋祭りやクリスマスの後のお茶会で意見や要望を聞いている	

施設名：もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社長研修・社長懇談会やミーティングの時に要望や提案を聞いてくれる機会がある。	・毎月のミーティング時の意見、提案は社長も出席する毎週の執行会議で話し合われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の努力や実績は給与に反映されている。代表者は職員個人のやりたい事や将来設計・家庭環境などを面談にて把握し職場環境整備に役立てている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に沿って研修を実施している。代表者は各職員と面談しやりたい事や力量を把握し各職員をトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は管理者や職員にグループ会社間の交流の機会を作っている。また、ケアマネの集まりや行政主催の会議にも積極的に参加させサービスの質の向上に役立てている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時、そしてその後もコミュニケーションをとりながら要望を把握し、家族からも情報を得るようにしている。		

施設名：もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が面会に来られた時に、様子・変化などを報告したり要望・意見を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容から現状を把握し必要なサービスを勧めている。他のGHの空き情報を提供したり事業所を紹介したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできることは時間がかかっても行えるよう見守り、またお手伝いをお願いすることで共に生活している関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会・年中行事の参加や面会はもちろん、日常の報告を定期的に行い情報を共有し、協力医以外の通院はお願いするなど共に支える関係ができている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られたり年賀状送るなど、今までと変わらない交流ができるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・遠方から親戚が訪ねて来ると、温かくもてなし、関係継続の支援をしている。 ・陶芸教室には5～6年通っているがその年により通える入居者は変わっている。現在は4名の方が通い、スタッフが同行している。 	

施設名：もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを一緒にしたり炊事の手伝いをしたりとスムーズに助け合いができ声をかけられるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先に面会に行ったり年賀状のやり取りをしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活から意向を把握するよう努めている。困難な場合は家族から情報を得たりスタッフ間で本人本位に検討している。	・思いや意向は、日頃の生活の中で聞き取り把握する ・把握が難しい方は表情や素振りや家族からの情報で判断するようにしている。 ・朝、夕の文書による申し送りで、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族等から情報を得たりこれまでのサービスについてケアマネージャーからも情報を得て生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りの内容や定期的なケアカンファレンスで現状を把握している。		

施設名：もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人担当者から出された課題や変化をケアカンファレンスで話し合い家族からの要望も取り入れて介護計画を作成している。	・毎月のカンファレンスで個別に状況を報告し、家族の意見も入れて話し合い、介護計画を作成したり、または、見直しにつなげている。 ・6ヶ月毎又は状態変化時に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、ケアカンファレンスの内容を介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族だけでは困難な通院介助や外出等はできる限り協力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力で菜園の野菜を収穫したり、安全・安心な暮らしのために交番にパトロール強化をお願いし協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常は協力医で受診するが他に希望する医療機関があれば家族とともに受診している。家族・かかりつけ医と連携をとり適切な支援をしている。	・現在は全員が協力医をかかりつけ医としている。連絡すると往診してくれる。歯科は訪問診療がある。 ・整形外科、耳鼻科などは家族が通院介助し、医療情報は報告を受けて、職員と共有している。	

施設名：もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康の変化にいち早く気づき、協力医の先生・看護師に相談したり受診できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の協力を得て治療経過を確認し早期退院に向けて関係者と相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた場合、早い段階から家族と話し合い、可能な範囲で最も本人が好ましい生活ができるよう取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・看取りの事例が1件ある。 ・重度化や終末期の対応指針を策定し、同意書も考案している。 ・本人の意思を尊重し、家族と医師の協力のもと、話し合いを重ねて支援する。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃の生活状況・身体状況を把握して利用者に起こる緊急事態とその対応について確認し対応できるようにしておく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。消防署に自動通報される火災報知設備あり。地域住民と連携した「夜間避難訓練」を実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は年2回定期的に、1回は消防署の立会いで実施し、夜間訓練も行っている。地域住民の参加、協力はこれからの課題である。 ・非常用の備蓄はできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は事業所だけでなく、地域住民の参加、協力を得ながら、実施することが期待されます。

施設名：もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人格を尊重した声掛けを心掛けている。	・利用者の声かけには、人生の先輩として敬意を払いプライバシーの保護に気をつけている。 ・管理者の「言葉に気をつければ態度も変わる」との思いを職員も実践している	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のレベルに合わせ自己決定できるよう声掛けし希望を表せるようにコミュニケーションをとりながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体力・体調・能力を考え一人ひとりのペースを尊重し日常生活ができるようスタッフ間で相談しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには常に気を配り個性を大切におしゃれをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや盛り付け、更に片付けまでできることを一緒に行っている。	・食材は業者から取り寄せ、メニューから調理まで職員の手作りで、利用者の状態によりミキサー食もある。希望により寿司の出前をとることもある。 ・利用者は食事の下拵えや盛り付け、下膳、食器ふき等をしている。	

施設名：もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往症等による禁食や摂取制限には注意してメニューを考え、あわせて水分量も季節に合わせて増量するなどの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きは毎食後行い訪問歯科の協力により定期的に口腔ケア、検診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	リハビリパンツ・パットを使用しているも、日中は排泄チェック表をもとに個々の状況に合わせて誘導しトイレでの排泄を支援している。	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの排泄パターンを記録して把握し、トイレ誘導をしている。 2階・3階ともリハビリパンツ使用者もいるが、自立してトイレに行く利用者もいる。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝一番の飲料や食物繊維を多く含んだ食材を取り入れたメニューやおやつ、更に軽い運動などを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴が好きな方はそのままに、拒否の強い方には無理強いくことなく、しかし清潔を保つために入浴の声掛けを工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> 入浴は週に2～3回午前・午後・夕方と、まちまちであるが、職員と話しながら楽しく入っている。 入浴を嫌がる人には、言葉かけを工夫して、成功している。 	

施設名：もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況により午睡や就寝時間を調整したり、季節に合わせて居室の温度調節を行い安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々が服用している薬を理解し処方が変わった時や症状が変わった時は申し送りノートを使用し情報を共有し確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状況やレベルに合わせて、買い物や散歩、外出、外食など季節を通じて日々工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人で外出できる方はいないが季節ごとに外出を計画して一泊旅行なども行っている。遠出ができない方でも園庭で外気浴したり畑の野菜の収穫を楽しめるよう工夫している。	・近くのお店に職員と買い物に出かけたり、庭や屋上で外気浴をしている。 ・慣例になっている一泊旅行や、初詣、フラワーセンターに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方には、買い物に行った際は自分でお会計ができるように見守り支援をしている。		

施設名：もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話があった時は気兼ねなく話せるよう支援したり荷物が届いたときはお礼の電話ができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい空間づくりを常に心がけ、季節を感じられるレイアウトや不快のない空調になるように配慮している。定期的な内装改修工事を実施している。	・全館が南に面しているため、終日明るい。温湿度・照明・換気を調整し、2酸化塩素で消臭・殺菌がされており不快な臭いはない。 ・季節に合った飾りを室内に施し、ひな祭りのときは、七段飾りやつるし雛で華やかな雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと廊下にソファを置きいつでも気兼ねなく過ごせる場所を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を置き、思い出の品物を飾るなど本人が落ち着ける居室になっている。定期的な内装改修工事を実施している。	・居室のエアコン、照明、加湿器は備え付けである。室内には手作りのお雛様や家族写真、アルバム、仏壇、好みの調度品を置き、これまでの生活の延長として落ち着いて過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要などころに手すりがあり安全に生活が送れるようにし危険が予測されるものは取り除くなどADLに応じて環境整備を工夫している。		

事業所名	もえぎケアセンター戸塚
ユニット名	菊の家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の人や家族にもわかりやすい独自の理念を掲げ、管理者と職員は理念を念頭に置いたサービスに取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着型「秋祭り」を開催したり小学校や地域の行事に参加し交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の小規模多機能サービス利用者の家族へ認知症ケアのアドバイスをしている。また徘徊ネットワーク連絡会に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回の運営推進会議でサービスの実際を報告し、出た意見はミーティングで周知して話し合いサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区主催の連絡会があり情報・意見の交換を行っている。		

もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束しないケアを理解し実践している。階段門扉の施錠は家族等にも説明し理解を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待について機会あるごとに話し合い見過ごされることのないよう注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者がおりこの制度を実務として学ぶことができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者より十分な説明を行い理解・納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望は自由に伝えられており管理者に報告されミーティング等で話し合い改善に努めている。		

もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社長研修・社長懇談会やミーティングの時に要望や提案を聞いてくれる機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の努力や実績は給与に反映されている。代表者は職員個人のやりたい事や将来設計・家庭環境などを面談にて把握し職場環境整備に役立てている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に沿って研修を実施している。代表者は各職員と面談しやりたい事や力量を把握し各職員をトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は管理者や職員にグループ会社間の交流の機会を作っている。また、ケアマネの集まりや行政主催の会議にも積極的に参加させサービスの質の向上に役立てている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の開始から本人の困っていることや不安に思っていることは丁寧に受け止め信頼関係を築いている。		

もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を開始する段階から家族の要望、不安に思っていることを受け止め安心していただけるよう対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で相談内容と現状を聞き必要であればGH以外のサービスを勧める。満室時は他のGHを紹介し探し方も教えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ご利用者と一体感ある介護サービスを創造する」という「理念・指針」を基本に職員が入居者より学び喜怒哀楽を共に分かち合う努力をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事を開催し家族を交えてレクレーションを行うなど共に過ごすことにより職員ともコミュニケーションを図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族とは定期的に連絡を取り状況をこまめに伝え面会の機会を増やすなど関係が途切れないよう支援に努めている。		

もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する利用者がいないよう声掛けし誰もが仲良く楽しい関係を築けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族と連絡を取り転居先に面会に行ったりして関係が途切れない付き合いを大切にしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや希望の把握には十分努めている。困難な場合には本人本位あるいは家族の意向で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に利用者一人一人の生活歴を含めたアセスメントをしており介護サービスに生かしていくことが重要と考え実践している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの状態はケアカンファレンスで対応方法などを話し合っている。必要に応じ緊急を要する時は管理者に連絡しすぐに対応できるよう常に現状を把握している。		

もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に記入していただく要望書や本人の希望、生きがい等を把握、実践するためにケアカンファレンスで全職員の意見を聞き介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個人記録で情報を共有している。更にケアカンファレンスや個人経過記録をケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が同行できない協力医以外への通院介助など対応できることには柔軟なサービスを心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方による花壇・菜園の手入れ、小中学校との体験学習交流を実施し、交番による防犯パトロールにより安全な暮らしができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族希望のかかりつけ医とは連携を取り情報を共有し適切な医療を受けられるよう支援している。また近隣に提携かかりつけ医がいる。		

もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者が適切に診察を受けられるよう、定期的に協力医の先生・看護師に相談したり様子を見てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず見舞いに行き早期退院に向け病院関係者と情報交換・相談を行っている。また退院後の療養生活について指導を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と話し合い本人の意思を尊重しかかりつけ医の協力の下ターミナルケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や救急救命の訓練を全員が受けた。利用者の緊急時におけるマニュアルを作成しすぐに対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中だけでなく地域住民と連携した夜間の避難訓練を実施した。、地域の防災訓練にも参加している。		

もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重しプライバシーを侵害することのないよう言葉かけや対応には注意を払って行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係のとれた日常生活において、思いや希望は自由に表現して自己決定できる環境ができています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	住み慣れた生活にそれぞれのペースがあり、無理強いすることなく本人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が好む服装をしていただいています。できない方には家族から情報を得て支援している。常に清潔を保てるよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や祝膳などを取り入れたメニューを考え盛り付けや下膳などできることを一緒に行いながら食事を楽しんでいる。		

もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重管理やかかりつけ医の指示により個々の栄養バランスを考え、食事・おやつ時間で水分が十分摂れる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを個別に付き添い実施している。自分で可能な方は見守り、できない方は介助している。また定期的に訪問歯科による口腔検診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しパターンを把握している。トイレで排泄できるよう誘導し腹圧や声掛けで失敗のないよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用している。食材は野菜を多く摂り毎日ヨーグルト、牛乳なども摂取していただいている。毎朝のラジオ体操や運動・散歩を積極的に行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望を聞くことは難しくなっているが一人ひとりの状況から入浴の希望を察し入っただいている。温度の調整などで気持ち良く入浴できるよう工夫している。		

もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中屋上散歩や歩行運動で体を動かしたり、夜間も団欒を楽しんでから入床するなど安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から処方していただいた指示薬は効能について職員一人一人が理解している。服薬介助は確実にを行い症状の変化の確認をしてかかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の興味が異なるため「できること」を把握し家事行動やレクリエーション時に様々な分野を取り入れ、喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々は屋上で外気浴をし、季節ごとに計画を立てて外出したり陶芸教室に参加している人もいる。季節や体調を見ながら戸外へ出る機会を作っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理することは難しいためホームでお預かりし本人の希望や家族の希望に応じて使えるよう支援している。		

もえぎケアセンター戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書ける方は少なくなっているが職員がそばについて見守っている。また家族からの電話は自室でゆっくり話せるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、居間共に日当たりの良い明るい落ち着いた空間になっている。毎日の生活の中心がリビングで、食事・体操・レクリエーションを行っている。季節に合わせた部屋の飾付けをしている。定期的に内装改修工事を実施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、リビング、庭、屋上にソファやベンチを用意しつづるぎの場所になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が今まで使用していた家具やベッドはもちろんのこと、位牌なども置いてある人もいる。使い慣れたもの見慣れたものを使用し本人が居心地の良い生活ができるよう工夫している。定期的に内装改修工事を実施している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存能力を見極めながら掃除・食事の用意、片づけ洗濯ものたたみなど一緒に行って自立した生活が送れるよう支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 GHもえぎケアセンター戸塚

作成日 平成23年4月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	避難訓練は事業所のみで実施した	町内会や近隣住民と連携した避難訓練を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練参加の人選、要請 ・日時設定 ・訓練内容の協議 ・実施 	12ヵ月
2					
3					
4					
5					